

平成 26 年 8 月 11 日

プレスリリース資料：一般社団法人 日本地質学会

解禁日：設定なし

## 「県の石」募集のお知らせ

日本では古来より郷土に産する岩石、鉱物、化石を愛し、またそれらを利用しながら発展してきました。例えば縄文時代には、黒曜石が矢じりなどに加工しやすいとのことで産地から離れた地域まで流通していました。また、国会議事堂の石材として有名な花崗岩は、御影石とも呼ばれ兵庫県の産地は御影町として地名に歴史を残しています。糸魚川で産出する硬玉の翡翠（ヒスイ）は、勾玉などの装飾品の材料として珍重されていました。昭和の時代には、石炭を主力産業として炭鉱町が活況を呈しました。そして今でも恐竜の化石は町おこしの目玉です。このように岩石、鉱物、化石といった地元の「地質」もまた、郷土のアイデンティティのひとつとなっています。

地元の地質を愛する心は国際共通であり、米国ではほとんどの州で「州の石」を定めてあります。しかし日本において「県の石」認定していると本学会のアンケート調査に回答した都道府県はありませんでした（2014年8月8日現在 30 県が回答）。

日本列島はプレートの沈み込み帯に位置し、深海の堆積物から火山や大陸地殻まで多様で幅広い時代の岩石から成り立っています。これほど多くの岩石に彩られている国は世界でも多くはありません。私たちが生活する大地の歴史と成り立ちを知り、郷土の地質を愛する心を再認識するために、日本地質学会では「県の石」の認定を企画しました。日本地質学会に所属する専門家のみならず、全国都道府県へのアンケート調査、そして市民の皆様の推薦を参考に各都道府県の「県の石」を認定して参ります。日本地質学会のホームページの専用フォームより必要事項をご記入のうえご応募ください。採用された方には抽選で記念品を贈らせて頂きます。できるだけ多くの皆様の推薦をお待ちしております。

【応募先】一般社団法人日本地質学会ホームページ：専用申込フォーム

<http://geosociety.jp>

【対象】天然に産する岩石、鉱物、化石のうち、各都道府県を代表するものが対象です。奇岩などの景観、および石碑等の人工建造物は含みません。

【応募資格】どなたでも応募できます。ただしお一人様あたり各都道府県に対して、岩石、鉱物、化石を1種類ずつまでとさせていただきます。

【応募期間】8月13日から10月31日まで

【発表】厳正な審査のうえ、2015年初旬に日本地質学会のHPにて発表します。

ただし鹿児島県のみは、9月の「日本地質学会 121 年学術大会（鹿児島大会）」にて、先行して発表いたします。

【問い合わせ先】〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15 井桁ビル 6F

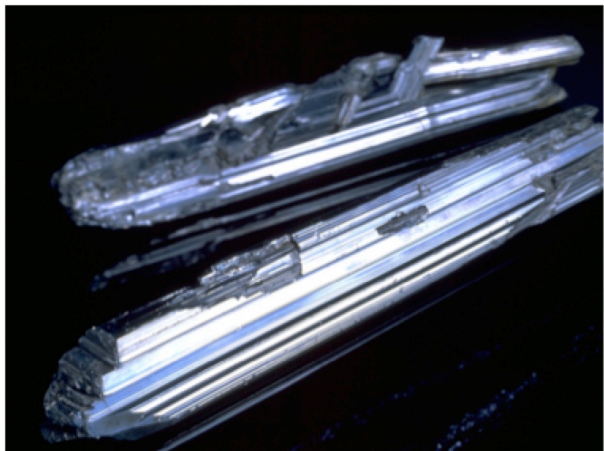
電話：03-5823-1150（代表） FAX:03-5823-1156

[main@geosociety.jp](mailto:main@geosociety.jp)

(別紙)

全国各地には、それぞれの地域を特徴づける岩石、鉱物、化石があり、人々の生活、文化、歴史と深く関係しています。有名な代表例を下記に挙げます（これらは例であり、「県の石」として決定したものではありません）。

#### 参考写真

	<p>北海道産アンモナイト</p> <p>過去の生物の化石たちは、私たちに地球と生命の歴史を教えてくれます。特に恐竜やアンモナイトといった大型動物の化石は、郷土のシンボルとして愛され、町おこしなどにも広く活用されています。</p> <p>(写真：東北大学総合学術博物館)</p>
	<p>愛媛県輝安鉱 (stibnite)</p> <p>別子銅山をはじめとする愛媛県の鉱山は、日本の近代化に大きく貢献しただけでなく、輝安鉱という美しい鉱物の産地として世界的にも有名です。それらの標本は、海外の博物館にも数多く展示されています。</p> <p>(写真：東北大学総合学術博物館)</p>
	<p>秋吉台の石灰岩</p> <p>遠洋のサンゴ礁を起源とする石灰岩は、セメントや製鉄の原料として戦後の高度成長を支えてきました。また石灰岩の産地には、カルスト地形という独特の風景が広がり、草原に点在する白い石灰岩はとても印象的です。</p> <p>(写真：秋吉台科学博物館、藤川将之学芸員)</p>